

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

山口卓也

開催月日	令和6年6月26日		
開催時間	12時30分～13時30分		
開催場所	東京ビッグサイト		
主催者	自治体・公共Week実行委員会		
研修会等の名称	自治体・公共Week		
講師等の氏名等	地域防災支援協会 代表理事 三平 洵氏／在宅ケア防災研究会 代表 佐藤 純 氏		
内容・結果等	【講義名】「協働で進める避難所運営のありかた」		
	概要:1月に発生した能登半島地震で現地支援にあたっている専門家から避難所運営の現状等を講義いただいた。		
	・初の試みとして1.5次避難所が設置。場所ごとに介護度別に別れて、次の避難所を待つ。		
	・時間の経過とともに指定避難所を統合し、それにより行政主導に変わっていく。		
	・様々な組織から様々な応援あり、事前把握が重要。DMAT,DWAT,DPAT,JRAT,DHEAT,JDA		
	・避難所運営について、住民の自主運営≠放置。一緒にやっていく、バックアップが行政の役割		
	・応援職員として配属されるのは、避難所、家屋調査、罹災証明書。事前対策が重要であり、避難所エキスパート養成講座(被災地職員、応援職員)を勧められた。		
	【まとめ・感想】事前対策としては、行政側だけでなく、行政と地域と繋がる場や避難所運営会議等の開催が重要だと学べた。協働という文字のごとく、どちらか一方ではなく、行政と地域の協力し合う意識の醸成が必要である。旗振り役として行政側からのアクションが鍵である。		
	上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先
会場費			
講師謝礼			
出席者負担金			
会費			
旅費		ANA(自宅～佐賀空港～羽田空港～会場)	29,500
宿泊費		アパホテル	19,000
振込手数料			
合 計			48,500

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

山口卓也

開催月日	令和6年6月27日		
開催時間	10時45分～11時45分		
開催場所	東京ビッグサイト		
主催者	自治体・公共Week実行委員会		
研修会等の名称	自治体・公共Week		
講師等の氏名等	Polimill 経営企画部エバンジェリスト ジュリアン・ブローディ氏／奈良県田原本町 前町長 森章浩 氏		
内容・結果等	【講義名】「自治体の生成AI活用事例紹介」		
	概要: Polimill社が提供する省庁・自治体サポートAI「コモンズAI」による活用事例の紹介。		
	基本的に無料提供。各専門領域で大幅に強化されたAI。福祉行政、情報通信政策等。		
	各専門分野の莫大な量の情報(国の計画、法律、研究論文等)を学習し、利用者(職員)		
	と対話しながらアウトプットする。ChatGPT等にはない、引用元を示すなど正確性を担保。		
	引用する情報(ナレッジ)には、自治体独自の条例、計画、調査結果等を入れ込める。		
	森章浩氏曰く、業務事務の変遷として、そろばん→電卓→ワープロ→PC→AIであり、大量の		
	情報から分析・立案が得意なAIを是非活用すべきとのことであった。職員を雇うより安い。		
	【まとめ・感想】印象的だったのが、コンサル丸投げ型の金太郎飴施策から、自治体自らが		
	考える政策への転換をサポートするとの内容であった。計画書など多くを委託して作成されて		
いるが、AIを活用して独自に作成することができれば、実態に即した計画ができるのではないかと感じた。AIソフトの実演を見ることで遠い存在だったAIを身近に現実的に感じれた。			
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	会場費		1ページに記載
	講師謝礼		
	出席者負担金		
	会費		
	旅費		
	宿泊費		
	振込手数料		
	合計		

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

山口卓也

開催月日	令和6年6月27日		
開催時間	12時30分～13時30分		
開催場所	東京ビッグサイト		
主催者	自治体・公共Week実行委員会		
研修会等の名称	自治体・公共Week		
講師等の氏名等	豊岡観光イノベーション事業部本部長 島津太一 氏 福井県観光連盟 観光地域づくりマネージャー 佐竹 正範 氏		
内容・結果等	【講義名】①「豊岡観光DX データ活用の取組み」		
	城崎温泉のコンセプト「街全体が1軒の旅館」。駅は玄関、メインストリートは廊下などとし整備。		
	町全体の宿泊施設の60%の旅館が参画し、宿泊データを一元化。客足の動向や価格等の肌感覚をデータ化で正確に分析し、地域へフィードバック。事業者の経営改善に役立つ。		
	②「データで切り開く(きたい)地域観光戦略」		
	観光施策は声の大きい人に影響を受け実施されることがあるが、ここではそういった感覚的なものに流されず、アンケートデータにより施策を行う。データは実態の可視化であり、合意形成の入り口。迷ったときの拠り所でもある。収集データはオープンデータとして共有財産化している。		
	【まとめ・感想】データを活用した観光施策や旅館経営などの事例を紹介していただいた。		
	本市でもデータを活かした施策が重要である。まずは本市でできる範囲で効率的にデータ収集に取り組むことが必要と感じた。最終的に重要なのは、データを上手に読み解き、活用することに繋げることだと思う。		
	上記活動に要した経費	経費の内容	支払先
会場費			1ページに記載
講師謝礼			
出席者負担金			
会費			
旅費			
宿泊費			
振込手数料			
	合計		

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

山口卓也

開催月日	令和6年6月28日		
開催時間	10時45分～11時45分		
開催場所	東京ビッグサイト		
主催者	自治体・公共Week実行委員会		
研修会等の名称	自治体・公共Week		
講師等の氏名等	明豊ファシリティークラス(株) 徳永 徹 氏		
内容・結果等	【講義名】「自治体の発注者体制を補完するCM方式活用事例」		
	実際の自治体の課題…複数同時進行、少ない経験、コスト上昇、デザインビルドを採用できるか		
	技術職員不足。		
	事例紹介…米沢市庁舎建設、デザインビルド方式。中野区の新庁舎。墨田区の新保険施設。		
	中野区での3校同時改築。千代田区教育委員会では、対象プロジェクトを限定せず、所管する		
	施設の全般的なサポート業務、コスト検証など、構想から計画、整備までにCM方式を活用している。		
	CM導入にあたっての留意点…①あくまで発注者の支援・補助者②目的の明確化と優先順位		
	③CM導入の段階④課題の共有。		
	【まとめ・感想】紹介された事例ではCM方式を導入し当初の市の概算よりも低コストでの発注		
	に繋がっていた。千代田区教育委員会が実施する所管施設全体を対象とした公共施設マネジメントでのCM方式の活用は参考になった。実際のCM事業者から事例紹介や留意点などを聞くことができ、本市の事例と重ねながらCM方式についての今後の可能性まで視野が広がった		
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 (円)
	会場費		1ページに記載
	講師謝礼		
	出席者負担金		
	会費		
	旅費		
	宿泊費		
	振込手数料		
	合 計		

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

山口卓也

開催月日	令和6年6月28日		
開催時間	13時15分～14時15分		
開催場所	東京ビッグサイト		
主催者	自治体・公共Week実行委員会		
研修会等の名称	自治体・公共Week		
講師等の氏名等	(株)マクニカ 佐藤 剛正 氏 / 加賀市 山内 智史 氏		
内容・結果等	【講義名】「国家戦略特区 加賀市とマクニカによる、自治体スマートシティ実現への取組」		
	加賀市での「スマートシティ」の取組事例の紹介・・・ドローンを用いた取組みを主に紹介された。		
	(株)マクニカの事業内容などの紹介・・・収益の柱は9割方、半導体商社部門。半導体事業		
	での人脈(色んな企業の技術や製品を知っているのがマクニカの強み)を活かして、自治体に		
	対するGXに係る提案を始めている。		
	加賀市も本市と状況が似ており、開業する新幹線駅と3つの温泉を繋ぐ道ノリで自動運転の		
	実験を行っている。しかし、講演内容の中では、自動運転については少しだけ、実証実験を		
	行っていることだけ触れられ、それ以外は中身が薄いものであった。		
	【まとめ・感想】講演後に加賀市の担当者からは、自動運転の実現可能性は難しいと率直な		
感想を聞いた。ライドシェアやデマンドタクシーが現実的だと。現在は企業版ふるさと納税のスキーム			
で実施できているが、それが終わればコスト的にペイできないとのことであった。			
マクニカの営業トークには引き込まれるものがあり企業としての成長期待を感じる講義であった。			
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 (円)
	会場費		1ページに記載
	講師謝礼		
	出席者負担金		
	会費		
	旅費		
	宿泊費		
	振込手数料		
合 計			

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

山口卓也

開催月日	令和6年6月28日		
開催時間	15時00分～16時00分		
開催場所	東京ビッグサイト		
主催者	自治体・公共Week実行委員会		
研修会等の名称	自治体・公共Week		
講師等の氏名等	石川県小松市長 宮橋 勝栄 氏 / 大阪府東大阪市長 野田 義和 氏		
内容・結果等	【講義名】「自治体ライドシェアで築く地域交通の新たな可能性」		
	小松市の公共交通について…一見充実しているように見えるが実情は空気を運んでいる		
	課題は運転手の高齢化・不足、バス利用者の減少、市の財政負担増加。		
	らくちんパスポート(定額乗り放題) 新たな公共交通体系 コマツ版Maasを構築		
	小松市ライドシェア、自動運転バス(レベル2)、シェアサイクル、Aiデマンド交通。		
	小松市ライドシェアは、実施主体は小松市、運行管理者は小松タクシー。予約はアプリとコールセンター。		
	ドライバーとして市の副業として認めている。まだ利用実績は少ないが認知上昇が課題。		
	タクシーの配車が困難な場合にライドシェアを配車するように運行データの一元管理システムを構築。		
	東大阪市ではまだ具体的な取組みはしていないが、2.5ライドシェアの実現を望んでいる。		
	【まとめ・感想】公共交通の先進地の小松市の取組みを聞くことができ参考になった。		
	現在は路線バスでの公共交通の維持が難しくなり、新たな公共交通への移行期間であり、先進地の事例を研究しながら本市の実情に合う枠組みを構築すべきと感じることができた。		
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	会場費		1ページに記載
	講師謝礼		
	出席者負担金		
	会費		
	旅費		
	宿泊費		
	振込手数料		
	合計		